

令和8年度

警防研修会 (FFS) を実施

日時：令和8年6月11日(木) 12日(金)

令和8年6月11日、12日の2日間、警防研修会を実施しました。

中消防署職員2名の講師のもと、3署の合計24名が訓練に参加しました。

この訓練の目的は、隊員が活動中に危険な状況に陥った際に自らの命を守り、生還するための知識・技術を習得することです。また、これらの知識・技術は救出活動にも活かせる内容となっています。

～訓練内容～

①ホースエスケープ

屋内でホースを手放してしまった際、ホースを探し伝えて退出口へ退出する方法を習得することを目的とする。



無線にて冷静な救難要請、正しい情報伝達をできるよう訓練を行いました。また、手放してしまったホースを探し、退出路を判断し、安全区域へ生還するための冷静さ及び技術も磨きました。訓練を重ねることでパニックコントロールや酸素消費量抑制のための効率的な呼吸法を身に付けていきます。

☆写真は、ホースを伝えて退出口に向かっている様子。

②狭所通り抜け

ホースラインを辿って移動する際の狭所通過時の方法を習得し、自身の通過できる限界を知ることが目的とする。



火災現場では重装備を纏い、現場活動を行います。狭い開口部や障害物を様々な体制を取りながら通過できるよう、また各隊員、体格差もあるため、自身の限界を知ることが目的としています。

☆写真は、装備している空気呼吸器の面体を装着したままボンベを脱着し狭所空間を通り抜ける様子。

③サバイバルポジション

屋内進入時において、フラッシュオーバー等により内部の状況が急変した際に、火炎及び熱から一時的に身を守る避難姿勢を習得することを目的とする。



サバイバルトレーニングでは、助けを待つだけではなく自身の生存のために積極的に身を守る避難姿勢をとるトレーニングを実施しました。

☆写真の体制は、アグレッシブポジションといい、室内には上腕と下腿のみ残した状態となります。体力的に長時間は難しく最終手段となります。各隊員は何分間体制を維持できるか等を試していました。

④ホリゾンタルラダー

窮地から脱出してきた消防士（要救助者）を、かかえ救出の要領で救出する方法を習得することを目的とする。



2階でサバイバルポジションをとって助けを待っている隊員（要救助者）を水平に抱えて救出する訓練を行いました。はしごの架梯位置、角度などを調整し、救出するために必要な技術を磨きました。

☆写真は、隊員が要救助者を救出している様子。

☆最後に

災害現場では予期せぬ危険に直面することがあります。今後も基礎訓練、実践的な訓練を通じて隊員の安全管理能力と活動技術の向上を図っていき、より安全で確実、迅速な消防活動に繋がられるよう精進してまいります。